

令和元年度全国学力・学習状況調査結果について

令和元年11月28日

白馬村教育委員会

平成31年度4月18日に実施された「全国学力・学習状況調査」について、今後の教育活動に役立てるため、本村の結果を分析しました。その概要をお知らせします。本調査での測定は学力の一部であり、学校教育活動の一側面です。

1 調査の概要

(1) 調査対象

	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	1,028,203	938,888
長野県（公立）	17,649	16,440
白馬村	75	63

(2) 調査内容

教科に関する調査（小学校調査は、国語及び算数、中学校調査は、国語、数学及び英語）

・ 出題内容は、

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

上記①と②を一体的に問う。

※英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式による。

今年度からA（知識）、B（活用）問題の区別をなくし、知識と活用を一体的に問う問題に変更された。

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果の概要

【小学校（6年生）】

	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
国語	63.8%	○				
算数	66.6%		○			

【中学校（3学年）】

	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
国語	72.8%			○		
数学	59.8%		○			
英語	56.0%			○		

(2) 各教科の調査結果の概要

【小学校（6年生）】

① 国語：本村と全国の領域別平均正答率比較

領域	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
話すこと・聞くこと	72.3%		○			
書くこと	54.5%	○				
読むこと	81.7%		○			
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.5%	○				

【考察】

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかんだり書いたりする問題が全国と比べ良くできていました。授業の中で、根拠を明確にして自分の考えを書くよう指導してきた成果と考えます。今後は、複数の情報を関連付けて考えさせる学習も取り入れ、さらに読む力をつけていく必要があります。
- 漢字を文の中で正しく使う問題が全国と比べ低い結果となりました。同音異義語などを正しく使えるよう、授業の中に漢字の取り立て指導や文作りなどを意識して取り入れたたり、漢字の練習を繰り返し根気よく行ったりすることで、漢字を正しく使う力をつけていく必要があります。
- 「話すこと・聞くこと」に関して、目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導を工夫する必要があります。「書くこと」に関しては、目的や意図に応じて相手に分かりやすく書く指導を工夫していく必要があります。

② 算数：本村と全国の領域別平均正答率比較

領域	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
数と計算	63.2%	○				
量と測定	52.9%	○				
図形	76.7%			○		
数量関係	68.3%		○			

【考察】

- 図形の性質を理解したり、図形の面積の求め方を説明したりする問題は、理解できていました。今後も図形についての感覚を豊かにできるように、実際に切ったり、折ったりするなどの具体的に操作する活動を多く取り入れた授業をしていきます。
- 問題別にみると、1(3)示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する。 $2(4)6 + 0.5 \times 2$ を計算することができる。3(2)示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。4(3)単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。の4問が全国正答よりも下回っていました。習ったことを反復練習する時間を取り入れながら習得する必要があります。
- 今後、提示された説明文章の意味を解釈し、その内容を使いながら同じように式の意味を説明することができるようにする必要があります。加えて、表やグラフを読み取る力、分かりやすく表す力を養う必要があります。

【中学校（3年生）】

① 国語：本村と全国の領域別平均正答率比較

領 域	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
話すこと・聞くこと	70.2%			○		
書くこと	82.6%				○	
読むこと	72.2%			○		
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.3%		○			

【考察】

- 「話すこと・聞くこと」では、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ問題が全国平均でした。話合いの中で何を問題としているのかを明確にすることに課題があるので、課題の解決を図る話合い活動を増やし、流れを踏まえて話合うことを意識付けるような指導を行っていきます。さらに、国語科だけでなく、学校生活全体を通して、話合い活動の場を積極的に設定していきます。
- 「書くこと」では、相手に伝わるように、適切な情報を用いて意見文に具体例を書き加える問題の正答率が全国平均を上回っていました。今後も生徒が書いた文章を相互に読み合うといった活動を通して、より良く相手に伝わる文章を考えさせる指導を行っていきます。
- 今後、「読むこと」に関して、新聞や書物、雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりする必要があります。また、文章の内容や構造を理解して必要な情報を取り出したり、多様な情報に触れる中で自分が興味ある話題に出会い、既存の知識や様々な経験と結び付けて自分の考えを広げたりすることが必要です。「話すこと・聞くこと」については、単に思ったことを発言するのではなく、話し合いの方向性を考えた発言をしたり、発言の内容だけでなく、なぜそのような発言をしたのかを考えたりできるように支援します。

② 数学：本村と全国の領域別平均正答率比較

領 域	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
数と式	63.8%			○		
図形	72.4%	○				
関数	40.8%		○			
資料の活用	56.3%		○			

【考察】

- 「数と式」の領域では、数の集合と四則演算、式の変形は比較的できていて、簡単な二元一次方程式を解く問題について低い正答率でした。連続する奇数の和に関する問題では、条件に当てはまる選択肢を選ぶ問題は正答率が高く、なぜそうなるかを説明する問題は低くなりました。
- 「図形」の領域は正答率が低く、基礎的な内容の理解が不十分です。また、記述式の問題についてもやや低い正答率となりました。「関数」の領域では、理解に課題が見られました。式やグラフが何を表しているのかを読み取る力が十分でないと考えられます。
- 「資料の活用」の領域では、設問により正答率に差が見られました。簡単な表を読み取ることはできますが、ヒストグラム（グラフの一種、柱状グラフ）などの資料を的確に読み取ることに課題が認められました。
- 今後、「図形」に関して、ある結論が成り立つ事柄について前提を変えたときに、同じ結論が成り立つかどうかを検討する場面を設定する必要があります。「関数」に関しては、変域の拡張や文字式の取扱い、関数の値の変化の割合といった内容の広がりともあいまって、関数関係を考察する能力を一層伸ばしていくことをねらいとしていく必要があります。

③ 英語：本村と全国の領域別平均正答率比較

領 域	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
聞くこと	67.9%			○		
読むこと	55.6%			○		
書くこと	45.8%			○		

【考察】

- 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることがほぼできていました。しかし、来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く問題ができなかった生徒が多くいました。普段の授業において、適切な応答を相手に返せるよう、対話の中で理由を説明する時間を設定していく必要があります。
- 今後、中1で単語量を増やして、中2で文法をしっかりと理解し、中3では読解などの総合的な問題に取り組む必要があります。また、英語の4技能を身に付けるために、読む・聞くの「受信」技能と書く・話すの「発信」技能とをバランスよく身につけ、相手と英語を用いて言葉のキャッチボールができるようになる必要があります。そのために英語を書いたり話したりする活動を多く取り入れて、英語で表現する力の育成に努めます。また、初めて聞いたり読んだりする英文に関して、概要をまとめたり、

情報や内容を正確に捉えたりできるように、英語に触れる機会を増やします。そして、生徒自身の実生活や実体験を表現できるような言語活動の充実を図り、英語でのやり取りを行う授業の工夫をしていきます。

(3) 児童生徒質問調査の結果（特徴的な事項について）

【小学校（6 学年）】

① 生活習慣について

「朝食を毎日食べている」、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「毎日同じ時刻に起きている」は 9 割以上で、全国平均を上回っており、比較的規則正しい生活をしていることが伺えます。

② 将来の希望・目標について

「将来の夢や希望を持っている」、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」も 9 割以上で全国平均を上回っており、夢や希望を持って挑戦する気持ちがあることが伺えます。

③ 家庭学習について

「家で自分で計画を立てて勉強している」は全国平均を上回っているものの、「学校の授業以外で 1 時間以上学習をしている」児童の割合は全国平均を下回っています。やや家庭での学習時間が少ないことが伺えます。

④ 読書について

「1 日 30 分以上は読書をする」、「毎週図書館に行く」全国より上回っており、読書は全国に比べ興味を持って取り組んでいます。

⑤ 地域とのつながりについて

「地域の行事に参加している」、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」、「地域を外国の人にもっと知ってもらいたい」はすべて全国平均を上回っています。児童は白馬を愛し、外国人の多い白馬をもっと発信したいと願っています。

⑥ 国語・算数の勉強について

「国語の勉強は好きですか」、「国語の授業の内容はよくわかるか」、「算数の勉強は好きですか」、「算数の授業の内容はわかるか」、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか」については、全ての項目で全国平均を下回っています。分かる、できた喜びを味わわせることが必要です。

【中学校（3 学年）】

① 生活習慣について

「朝食を毎日食べているか」、「毎日同じくらいに寝ているか」は 9 割以上で全国平均を上回っており、基本的な生活習慣は身につけている生徒が多いと思われます。

② 家庭学習について

「学校の授業以外で 2 時間以上学習している」生徒の割合は全国平均を下回っています。やや学習時間が少ないことは、家庭の協力も必要と思われます。

③ 地域とのつながりについて

「地域の行事に参加している」、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」、「地域を外国の人にもっと知ってもらいたい」どの項目も全国平均よりかなり高い結果です。生徒は地域を愛し、外国人の多い白馬をもっと発信したいと願っています。

④ ICT活用について

「2年の時に週1回程度活用したか」、「授業でもっとICTを活用したい」は全国平均よりも高く、中学校では一人1台のタブレットが大きな成果を上げていると思われます。ICT機器の効果的な活用方法の研究を進め、積極的に活用していきます。

⑤ 国語・数学の勉強について

「国語の勉強は好きですか」、「国語の授業の内容はよく分かりますか」、「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業の内容はよく分かりますか」は、全国平均に比べかなり低かったです。理解が深まれば興味や関心がわき、さらに探求していこうとする気持ちになります。終末を大切にし、分かる授業に心がけていきたい。その反面、「英語の勉強は好きですか」、「英語の授業で学習したことは将来役に立つか」、「日常的に英語を使う機会が十分あったか」、「将来英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思うか」全国平均よりも高く、国語や数学に比べ英語に興味を持っています。外国語の学習に関する意識の高さが伺えます。

3 学力向上に向けた今後の取組

【学校の取組】

(1) 授業改善

- ① 「ねらい」「めりはり」「見とどけ」を意識して日々の授業を実践していく。
- ② 身に付けさせたい力を明確にし、授業のねらいを達成させるための学習課題（内容、提示の仕方等）の設定を工夫する。
- ③ 授業終末時の本時で身についたこと振り返り書く時間を確保し、全体で共有し合う。
- ④ 互いに聞き合い、伝え合う言語活動を基盤として、共に課題を解決し、自分の考えを深めることができる「主体的・対話的で深い学び」の実践を積み上げていく。
- ⑤ 基礎・基本の定着を図るために、授業の中で繰り返し学習する場を設定する。
- ⑥ 補充的学習や発展的学習に積極的に取り組むようにする。
- ⑦ 学習環境を整備するとともに、一人一人が体験的に学べる場を設定する。

(2) 授業におけるICT機器の活用

- ① 資料、写真等やシュミレーションソフトを使い、場面提示を工夫する。
- ② 授業における基礎的な知識や技能の習得場面と、習得したことを基に活用する場面でICT機器を積極的に活用する。

(3) 学力の定着のために

- ① ティームティーチング、少人数学習を実施する。
- ② 授業の中に反復練習を入れる時間を確保し、授業とマッチした家庭学習の在り方を考える。

③ 家庭学習の質の向上と実践する働きかけをする。

- (4) 関連する過去の問題に当たったり、授業アイデア例（国立教育政策所）を使ったりして授業実践をする。
- (5) 調査問題を対象学年の先生方だけでなく、他の先生と一緒に解いてみる。そして、解説資料や報告書等を参考としながら、どのような力が必要なのか考える。

【教育委員会の取組】

- (1) 各校の実情に応じた村費による教育支援員の配置。
- (2) 小学校の英語学習支援員の配置。
- (3) コミュニティ・スクール（地域の教育力を活かした学校教育）の充実。
- (4) ICT機器の利活用の推進。
- (5) 授業参観を行い、指導法の改善に役立てる。

【家庭の取組】

- (1) 規則正しい生活習慣作りの継続。
- (2) 家庭学習と読書の時間の確保。